

健康の維持・増進とスポーツの発展に関わる 多様な領域に寄与できる高度専門的職業人を養成する

法政大学スポーツ健康学研究科が目的とするのは、スポーツ健康の分野において現代社会が期待する多面的な高度専門的職業人の養成です。これを実現させるためには「スポーツ健康学」分野において、ある特定の専門分野を深化させるだけではなく、関連する分野を総合的に学んでいくことが必要です。具体的には、幅広いスポーツ健康学に関わる基礎知識をベースに、スポーツと健康づくりに関わる各種の教育や事業を企画・立案、管理・運営、実践・指導、点検・評価することのできる高い専門知識と技術を身に付けるための学びです。これらを提供するために、スポーツ健康学研究科は「スポーツ健康学」を教育研究の土台としながらも、これまでの枠組みに縛られることなく、最新のスポーツ科学と健康科学を「総合的」に展開します。これにより、実践力の高い人材を育成し、健康の維持・増進とスポーツ発展に関わる多様な領域で社会に貢献していきます。

アドミッション・ポリシー (学生受け入れ方針)	カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施方針)	ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)
下記の能力を備えた受験生を、各種選抜試験を通して入学させます。 ・入学後の就学および研究活動に必要な知識や技能を有している。 ・物事を多面的かつ論理的に深く考察することができる。 ・人間、スポーツ、健康、教育などに関わる諸問題に深い関心を持ち、高度専門的職業人として社会に貢献する意欲がある。 ・積極的に他者と関わり、対話を通して相互理解に努めようとする態度を持っている。 ・自分の考えを適格に表現し、伝えることができる。	研究科の人材育成目的達成のために、下記のような教育課程を編成します。 基礎科目：スポーツ健康学分野における基礎的な素養を涵養し、また周辺領域の知識を身につけさせることを目的とする科目であり、すべて必修とする。 展開科目：基礎科目で修得した知識を土台にして、修了後の職業を見据えた専門的な学びを発展させることを目的として、3つの科目群(スポーツコーチング、ヘルスプロモーション、スポーツマネジメント)を配置する。なお、「スポーツ健康学」の多様性に鑑み、科目群ごとの履修条件は設けない。 研究指導科目：修士論文執筆指導を行う科目。	・「スポーツ」と「健康」およびそれらを取りまく「社会環境」について体系的に理解している。 ・スポーツ健康に関わる、自ら設定した課題について、それを解決する方策を導くことができる。 ・スポーツ健康学の知を実践の力へと高めることができる。 ・積極的にスポーツ・健康づくりに自身の役割を自覚することができる。 ・スポーツ健康学の知を持って社会のニーズに応えることができる。 ・スポーツと健康づくりに関わる各種の教育や事業を企画・立案、管理・運営、実践・指導、点検・評価することができる。

研究室紹介

平野 裕一 教授

目的に適った動作を身に付けることに資する研究

スポーツにみられる動作および用具の運動を計測・分析し、
目的に適った動作を見出して競技力向上に役立てる

バイオメカニクスとは、バイオ(生物)とメカニクス(力学)を語源とし、「身体に作用する力とその力が生み出す効果に関する科学」といわれます。「身体に作用する力」とは、自身が発揮する筋力に起因した反力および重力、抵抗力、浮力などです。そして「その力が生み出す効果」が動作の変容ということになります。したがって、どのように神経を働かせて筋肉を活動させると、そして身体の外からの力をどのようにコントロールすると目的に適った動作になるかを探るのです。生物として可能な神経支配や筋出力の中で力学的に適った動作を見出していくわけです。その中でも私は、脚の動きと腕の動きをどうマッチングさせると目的に適った動作になるかということに興味があります。



学生・修了生の声

錫田 昌也 修士課程 在学中

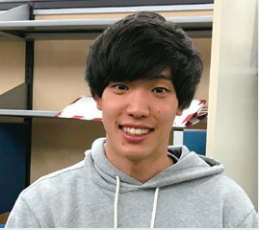
多岐にわたる分野で構成されている「スポーツ」
学びを通して臨床と研究を繋げていきたい

大学院の魅力

スポーツ健康学といっても専門は様々で、スポーツ経済学やスポーツ心理学など、スポーツという軸からそれを取り巻く全てのことが研究対象となります。そんな多分野の教員、学生が集まる場だからこそ、より多くの視点からディスカッションでき、専門外のことも学べるのが本専攻の魅力です。

将来の目標

現在の研究現場の問題点として臨床のスポーツ現場との分離があると考え、研究者かつトレーナーとして臨床と研究を繋ぐことが目標です。そのために博士課程への道に進み、大学に戻って教授として指導する立場になりたいです。また、学生トレーナーの指導および、体育会の支援を行うことも考えています。



研究テーマ

大学男子長距離選手の体脂肪率と貧血との関係

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
安藤 正志 教授	リハビリテーション医学	運動学、運動療法	運動器疾患特論
泉 重樹 教授	アスレティックトレーニング、スポーツ医学、鍼灸学	体幹(腰部)の動作とエクササイズ評価、スポーツ外傷・障害に対する鍼治療	アスレティックトレーニング特別演習、スポーツ健康学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
荻部 俊二 教授	スポーツコーチング学、スポーツ心理学	身体運動と言語イメージ	スポーツコーチング学特論、スポーツ健康学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
鬼頭 英明 教授	学校保健、健康教育、公衆衛生	喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育、性教育、医薬品教育、健康教育	公衆衛生学特論、学校保健学特論、保健体育科教育法特別演習、スポーツ健康学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
木下 訓光 教授	スポーツ医学、循環器病学	スポーツ心臓、エネルギー代謝、心肺運動負荷試験、生活習慣病の運動療法	スポーツ健康学特論Ⅱ(自然科学)、スポーツ健康学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
高見 京太 教授	発育発達学、運動生理学	子供の運動や生活習慣と体力・健康づくり、身体活動のエネルギー消費量	発育発達学特論、スポーツ健康学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
永木 耕介 教授	スポーツ教育学	教材文化論、武道教育論	スポーツ教育学特論、保健体育科教育法特別演習、スポーツ健康学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
中澤 史 教授	スポーツ心理学	アスリートの心理サポート(スポーツメンタルトレーニング・スポーツカウンセリング)、体育授業・運動部活動の心理学	スポーツ健康学特論Ⅰ(心身科学)、スポーツメンタルトレーニング演習、スポーツ健康学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
平野 裕一 教授	スポーツバイオメカニクス、トレーニング科学	投打動作の分析、瞬発的なパワー発揮を向上させるための筋力トレーニング	スポーツ運動学特論、スポーツバイオメカニクス特論、スポーツ健康学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
山本 浩 教授	コミュニケーション論、ジャーナリズム論	スポーツシーンのコミュニケーション、スポーツ実況論	スポーツジャーナリズム特論、スポーツ健康学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
伊藤 真紀 准教授	スポーツマネジメント、女性スポーツ	スポーツにおけるリーダーシップ、アスリートのキャリア構築	スポーツ組織行動特論
瀬戸 宏明 准教授	スポーツ医学、整形外科	運動器損傷に対する予防と再生について	スポーツ健康学特論Ⅱ(自然科学)
吉田 政幸 准教授	スポーツマーケティング、スポーツ消費者行動	スポーツイベントにおける集客、スポーツファン、スポーツレガシー、スポーツの社会的効果	スポーツマネジメント特論、スポーツ消費者行動特論、スポーツフィールドスタディー演習、スポーツ健康学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
井上 尊寛 専任講師	スポーツ産業学、スポーツマーケティング	スポーツ観戦者の観戦行動、プロ・スポーツクラブのマーケティング戦略	スポーツ産業学特論、スポーツマーケティングリサーチ演習、スポーツ健康学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
林 容市 専任講師	応用健康科学、生理心理学	身体活動・スポーツ動作の感覚認知と運動制御、生理的状态と心理的情報との対応、種々の身体パフォーマンスに関する体力の測定・評価	健康体力学特論、体力・機能測定評価演習、スポーツ健康学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
ネメシュ ローランド 専任講師	コーチング学、ハンドボールコーチング、体育学	GCA (Game Centered Approach)	スポーツトレーニング学特論

〔2018年度〕※年度により授業を持たない場合があります。

修士課程

●基礎科目

研究デザイン・フィロソフィー
スポーツ健康学特論Ⅰ(心身科学)
スポーツ健康学特論Ⅱ(自然科学)
スポーツ健康学特論Ⅲ(人文社会科学)

●展開科目

〔スポーツコーチング科目群〕
スポーツコーチング学特論
スポーツ運動学特論
スポーツバイオメカニクス特論
スポーツトレーニング学特論
発育発達学特論
スポーツ教育学特論
アスレティックトレーニング特別演習
スポーツメンタルトレーニング演習
チームビルディング演習
保健体育科教育法特別演習

〔ヘルスプロモーション科目群〕
健康体力学特論
健康心理学特論
運動器疾患特論
スポーツ栄養学特論
公衆衛生学特論
学校保健学特論
体力・機能測定評価演習
運動疫学演習

〔スポーツマネジメント科目群〕
スポーツマネジメント特論
スポーツ産業学特論
スポーツメディア特論
スポーツ健康政策学特論
スポーツジャーナリズム特論
スポーツ組織行動特論
スポーツ消費者行動特論
スポーツフィールドスタディー演習
スポーツマーケティングリサーチ演習

●研究指導科目

スポーツ健康学演習Ⅰ
スポーツ健康学演習Ⅱ
スポーツ健康学演習Ⅲ
スポーツ健康学演習Ⅳ

〔2018年度〕※すべて2単位